

インターバンクの声（2016年4月25日）

ドル円が約3週間ぶりに111円台に戻して来た。日銀が金融機関に対する貸し出しにもマイナス金利の適用を検討する可能性があるという金融情報サービス会社が伝えたことが材料視されたようだ。日銀が現在実施しているマイナス金利の適用範囲は当座預金に限られており、それが銀行の貸し出し金利にも適用されれば確かに影響は大きくなるはずだが、あれだけマイナス金利の導入に冷淡な反応しか見せていなかった市場の様変わりには少し違和感もある。東京市場の昼過ぎから12時間も経たないうちに2円以上円安が進んだことも少し速すぎる気がするし、105円台まで下げることなく戻ってしまったのもテクニカルを重視する人達にとっては中途半端な相場になっていると感じているはずだ。米連邦公開市場委員会(FOMC)と日銀金融政策決定会合が週の中盤に相次いで開催されるため、それぞれの会合の決定次第ではもう一段相場水準が変わる可能性もある。市場からはドルが対円では一旦底を打ったとの声も聞かれるが、個人的にはその見方にまだ懐疑的だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。